南阿蘇村立南阿蘇中学校　学校だより

ハーモニー

Since2016

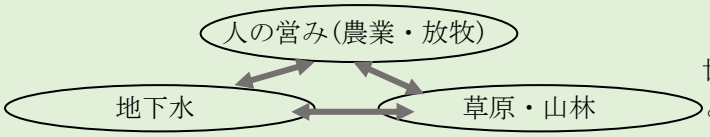
校訓 南 Mission 使命 阿 Action 行動 蘇 Sense 感性

R5.2.17(金) No.38 小柳弘志

「誇りに思ってもらいたいこと」

２月１５日(水)の５時間目に、この日から数えてあと１７日で卒業式を迎える３年生に南阿蘇村 吉良清一 村長より講話をしていただきました。演題は「誇りに思ってもらいたいこと」です。村長様は「誰もが住みたい・住み続けたい南阿蘇村」の実現のために日々活動されています。 卒業したら南阿蘇を離れて寮生活を送る人もいますし、高校卒業後に南阿蘇を離れる人もいます。そんな３年生に対して、昨年度に引き続き、次の進路に自信をもって旅立って欲しいという思いを込めて話をしていただきました。(以下の概要です。)

○阿蘇の草原の重要性
○南阿蘇村に湧き出る地下水の量(水の都くまもとを支えている)
○地下水の減少、草原の危機
○野焼きの重要性
○阿蘇の循環システム(阿蘇世界文化遺産登録推進について)



世界のどこにもないオンリーワンの自然とそれを創り出してきた人々の営み

○世界中どこを捜してもない村である

村長様が中学生に話をしようと思われたきっかけは、この南阿蘇村から都会に出て行った時に、村には何もなかったと自信をなくす若者がいることを知り、若者には地元に残っても、地元から離れてもふるさとに自信を持ってもらいたいという強い思いがあったからとお聞きしました。

生徒の感想です。

○将来、南阿蘇にいるか分からないけど、南阿蘇で生まれ育ったことを誇りにできると思いました。
○講話を聞いて、南阿蘇村の良さを改めて知りました。良さを調べてみようとも思いました。
○私は南阿蘇村に住んでいますが、故郷のことを知らなかったんだなと思いました。草原の重要性や地下水の減少など知らないことが多かったです。知ることの大切さを感じました。
○話を聞いて良かったです。南阿蘇村は他の地域にも負けない良さがあり、誇れる場所だと思いました。

少年の主張　～わたしの主張 2022～

今回、全国約３９万人の中学生が応募しました。永岡桂子文部科学大臣はあいさつの中で「これからの世の中は社会のデジタル化、グローバル化が急速に進展し、更には、新型コロナウイルス感染症の影響により、複雑で予測困難な時代であるが、**中学生が日常生活の中で考えたことや、伝えたいことなどを発表することは、多様なものの見方、考え方を養うもの。正にこれからの社会を生きていく上で、一生の財産となるもの**」と話されています。作品を紹介します。

「これから出会うであろう人たちへ」　　石川県 中学３年生

小学三年生の ときに、『二日月』という本に出会ったことで、私の考え方が大きく変わりました。 主人公の妹は、病気のため、痩せていて、とても小さいです。ある日、妹を見た、知らないおばさんは言います。「ご病気か何かですか？かわいそうにね」主人公は「かわいそうだなんて、言われたくない !」と心の中で叫びました。

「かわいそうじゃない」こんな考え方があるのだと、私はそのとき、初めて知りました。私は心臓に病気があります。生まれてすぐに大きな手術をし、そのあともずっと入退院を繰り返していました。このことを周囲の大人が知ると、彼らは決まってこう言います。「かわいそうに」と。 だからでしようか。「自分は弱くて、何もできない人間なんだ」と思い込んでいました。周りからの悪意のある言葉にも、心配の言葉にさえも、怯えていました。

そんな中出会った、「かわいそうじゃない」という言葉。「私は同情されるような存在じゃない。まして、見下される人間でもないんだ !」自分の中の暗い気持ちが、すつと小さくなりました。

このときを境に、私は人に恵まれていることに気づけるようになりました。 私には運動制限があり、マラソン大会に参加できません。「うらやましい」とよく言われますが、私はそれが嫌いです。両親に話すと、「気にしなくていいんだよ」と抱きしめてくれました。両親の優しさは、いつも私を救ってくれます。「自分は長く生きられないのだろうか」という恐怖を打ち明けたとき、ともにその恐怖と向き合ってくれました。「確かに、この先何があるかわからない。でも、何があったって、みんなが守ってくれるよ」と、私を勇気づけてくれました。 マラソン大会当日。応援することしかできず、気持ちが沈んでいくばかりの私が、救われた瞬間がありました。「応援してくれた聡音さんに、拍手をしましよう」 という担任の先生の言葉で、クラスのみんなが温かい拍手を送つ てくれたのです。 今でも、思い出すたびに心が温かくなります。「私の周りには、助けてくれる人、大切にしてくれる人がたくさんいる。これってすごく幸せなことじゃないか !」私を大切にしてくれる人たちに出会ったおかげで、今こうして生きていられる。気づいた瞬間、今まで出会ってきた 人たちへの感謝の気持ちが、心の中に溢れてきました。 同時に、「自分はこの人たちに、何か恩返しができないのだろうか」そんな気持ちも生まれてきました。でも、恩返しって、何をしたらいいんだろう？子供の私にできることなんてあるの？と悩んでいたとき、主治医の先生が、教えてくれました。先生自身も耳の病気で手術を繰り返し、お世話になったお医者さんの恩に報いるために医者になったのだ、と。はっとしました。支えてくれた人全てに、**直接恩返しすることは難しい。それなら、これから出会うであろう人たちへ、恩を返せばいいのです。** 私には、夢があります。医者になるという夢です。私を救ってくれた小児科の先生方のような医者に、私はなりたい。 かつての私がそうであったように、辛い思いを している子供たちの支えになりたいのです。 医者になるためには、人の何倍も勉強しなければな りません。そのための一歩 として、希望の高校へ行けるように、 今頑張って勉強しています。 **たくさんの人に大切にしてもらえた私が、今度は、これから出会うであろう誰かを大切にするために。**

この作品を通して、これからどんな人生を作り上げて行きたいですか？

いつも温かい食事を準備してくれる家族、送り迎えをしてくれる祖父母、私が疲れたときや辛いときに「大丈夫？」と声をかけてくれる友達。周りの支えは、身近過ぎてつい忘れがちです。しかし、この作文を書いたことで、改めてそのありがたみを実感しました。これまでに出会い、たくさん大切にしてもらった人たちへの感謝を込めて、これから出会うであろう人たちへ、このことを伝え、繋いでいきたいと思います。